

2004年5月9日

サウジ・アラムコとサウジアラビア（ラービグ）での 石油精製・石油化学事業開発の共同企業化調査実施の件

住友化学は本日、サウジアラビアン・オイル・カンパニー（サウジ・アラムコ）との間で、サウジアラビア紅海沿岸のラービグにおける石油精製と石油化学との統合コンプレックス開発計画（ラービグ計画）について基本的な枠組みを定めた覚書を締結しました。両社は今後、共同してフィージビリティ・スタディー（企業化調査）を実施し、その中で、計画の実現に向けての詳細について検討してまいります。投資額は、現在のところ約43億米ドルと予想しています。

本計画は、石油会社と石油化学会社とがお互いの強みを生かし、石油精製と石油化学の統合コンプレックスとしては世界最大級の設備を建設することでスケールメリットを追求するとともに、両事業の完全なインテグレーションによりシナジーを最大限に発揮しようとするものであります。

住友化学は、本年から始まった新しい中期経営計画において、ポリオレフィンを中心とする石油化学事業を重点事業のひとつと位置づけておりますが、同事業の中長期的な収益性を向上させるためには、安価原料を安定的に確保することが最重要課題であると考え、鋭意具体的な施策を検討してまいりました。その結果、本計画は、そのための最善のプロジェクトであり、これにより世界市場における当社の競争力が飛躍的に強化されるものと判断し、覚書の締結を決定いたしました。住友化学は、すでに石油精製地であるシンガポールにおいて石油化学の海外事業を手がけておりますが、本計画は、さらに初の産油地立地を目指すものとして、グローバル戦略の新段階をなす画期的なものであります。

また、本計画はサウジ・アラムコにとって、幅広い川下関連産業の発展を通じ、工業のさらなる多様化に貢献するものであり、外国企業を誘致して経済発展を促進し、サウジアラビア国民の就業機会を増やすという同国の戦略にも合致したものであります。

【計画の概要】

両社は、本計画の事業主体として共同出資会社を設立します。サウジ・アラムコは、現在、ラービグにおいて所有する日量40万バレルの原油処理能力を持つ製油所をインフラも含めてこの会社に移管します。新会社は、これに加え新たに世界最大級のエタンクラッカーと流動接触分解装置（FCC）、さらに、エチレン、プロピレン各誘導品の生産プラントを新設します。この結果、これまで生産してきたナフサや重油などの石油精製品に、エチレン、プロピレンとその誘導品およびガソリンが新たな生產品目として加わります。年間生産能力はエチレンが130万トン、プロピレンが90万トンであり、その全量を石油化学誘導品の生産に充当する予定であります。

本計画に予定されている石油化学誘導品としては、次のものがあります。

- 1) ポリエチレン(PE) 2系列(住友化学技術による新型ポリエチレン(EPPE)を含む)
なお、合計年産能力は約75 - 90万トンの予定
- 2) ポリプロピレン(PP) 2系列で、合計年産能力は70万トン
ホモポリマー、ブロックコポリマー、ランダムコポリマー、ターポリマーのフルレンジをカバーし、コンパウンドも予定
コンパウンドの能力はフィージビリティ・スタディーで検討、決定予定
- 3) 住友化学の技術によるプロピレンオキサイドまたは他のプロピレン誘導品
能力はフィージビリティ・スタディーで検討、決定予定
- 4) 上記以外のエチレン誘導品(候補としてエチレングリコール、アルファオレフィン等)については、フィージビリティ・スタディーで検討、決定予定

サウジ・アラムコは、本共同出資会社に日量40万バレルの原油、95百万立方フィートのエタン、10~15千バレルのブタンを供給します。一方、住友化学は多岐にわたる独自の石油化学製品の生産技術とアジア全体に及ぶ販売網を提供します。

本計画の操業開始は2008年後半を目標にしています。

なお、両社は、本計画をできるだけ迅速に進めるため、プロジェクト・マネジメント・コンサルタントおよびその他のアドバイザーを起用する予定であります。

以上